

身近なエコ活動

近年、地球上では、気候変動、オゾン層破壊など、多くの環境問題が起きています。これらの問題は、人類のさまざまな活動が複雑にからみあって生じています。これらの環境問題には、地域、国などのさまざまなレベルでの取り組みや、国を超えた協力体制が必要です。そして、同時に必要なのは、環境を守ろうという一人ひとりの意識と行動です。日本において人びとが日常生活で行っているエコ活動を中心

3R

日本でも、環境活動のキーワード「3R」の視点からエコ活動が推進されています。3Rとは、リデュース(Reduce)、リユース(Reuse)、リサイクル(Recycle)の頭文字をとったものです。

リデュース

使うエネルギーや資源を減らし、ごみをなるべく出さないこと

家庭でも企業でも、電気をこまめに消す、水道水をこまめに止める、などがリデュースの基本です。環境省は、夏はエアコンの温度設定を28度にするよう呼びかけ、その温度でも涼しく快適に働けるような服装、男性であればノーネクタイ、ノージャケットなどのクールビズを提唱しています。また、個人が簡単にできる「リデュース」活動が注目を集めています。

エコバッグ

1970年代後半から、スーパーマーケットなどの店で買ったものを入れるための袋として、安価で丈夫なポリエチレン製のレジ袋が使われるようになりました。それまでは、多くの人がかごなどを買い物に持参したり、紙袋が使われたりしていました。現在では、日本全体で年間約300億枚のレジ袋が使われているといわれています。これは石油に換算するとドラム缶約1500万本にあたります。



レジ袋が要らない人は、レジ近くに備えられている不要カードをカゴに入れる。

このレジ袋を削減するために、買い物にバッグを持参する人が増えています。このバッグのことをエコバッグ、あるいはマイバッグと呼んでいます。同時に、これまで無料だったレジ袋を条例によって有料化する自治体や、レジ袋を断るとポイントが付き、ポイントが貯まると商品の割引やプレゼントなどの特典が得られる制度を導入しているスーパーも増えています。2年ほど前には有名ブランドがエコバッグを販売して流行したことなどから、エコバッグブームが起きました。現在ではおしゃれなエコバッグや機能的なエコバッグなど、さまざまな種類のエコバッグが販売されています。

ところで、日本の昔ながらの入れ物といえば風呂敷です。四角い布で、持ち歩くときは小さくたたむことができ、いろいろな大きさや形のものを作ることができます。使い捨てではなく何度でも使える風呂敷を見直す動きもあります。

ふろしき研究会ウェブサイト

<http://homepage3.nifty.com/furoshiki/>



風呂敷で瓶を包む。



風呂敷の角を結んで作ったバッグ。

風呂敷で瓶を2本包みましょう【手順】



1. 風呂敷を広げ、真ん中に瓶を2本置きます。



2. 風呂敷を折ります。



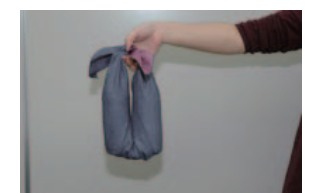
4. 半分に折ります。



3. 瓶を風呂敷で巻きます。

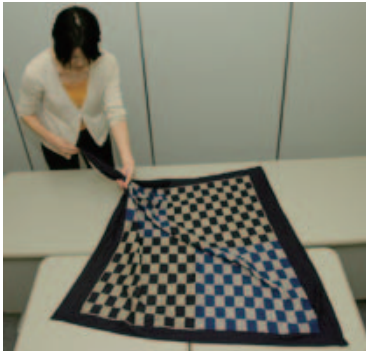


5. 風呂敷の端を結びます。



6. できあがり。

風呂敷でバッグを作らしよう【手順】



1. 風呂敷の角から少し離れた所を結びます。



2. ほかの角も1と同じように結びます。



3. 2本を結びます。



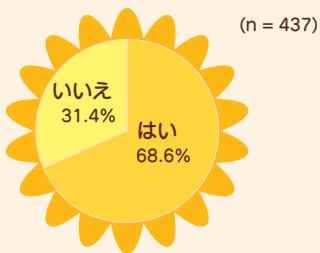
4. もう一对の2本も結びます。



5. できあがり。

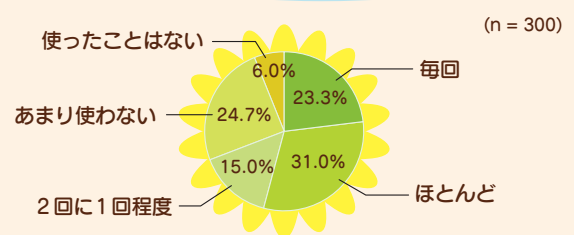


Q1: エコバッグを持っていますか。



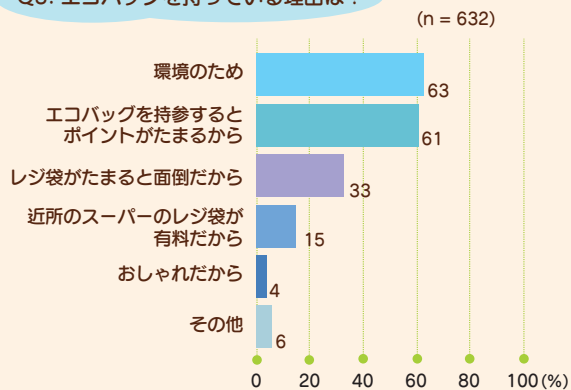
(Q1で「はい」と答えた人に対して)

Q2: 買い物のときのエコバッグの利用頻度は？

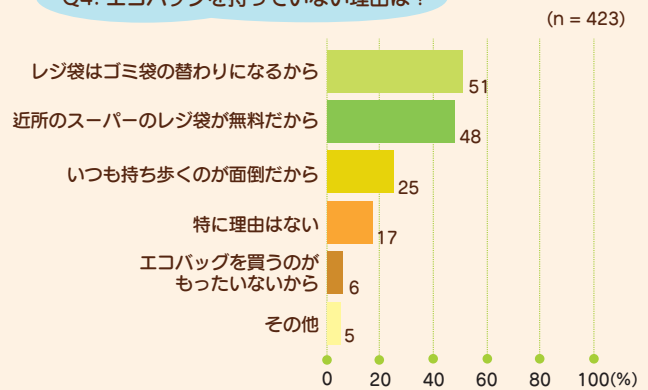


Source: "Survey on Attitudes Toward Eco-Bag Use," Ishare Inc., 2008

Q3: エコバッグを持っている理由は？



Q4: エコバッグを持っていない理由は？



Source: "Survey on Eco-Bag Use," joint survey by Goo Research and the Yomiuri Shimbun, 2007

マイ箸

日本では、飲食店では割り箸が使われることが多く、また、コンビニでもお弁当を買うと割り箸がついてきます。割り箸とは、半分のところまで割れ目が入っていて、使うときに残りを割って2本になるように作られている箸です。使い終わったら多くの場合、捨ててしまいます。林野庁によれば日本で1年間に消費される割り箸は約250億膳。「使い捨ての割り箸はもったいない」と自分の箸、マイ箸を持ち歩き、飲食店で割り箸の代わりに使う人が増えていきます。また、割り箸の消費を減らすため、客に割り箸が必要かどうか尋ねたり、有料にしたりするコンビニなども増えてきています。



割り箸



マイ箸：携帯しやすいようにコンパクトにしまえるなどいろいろな工夫がされている。

どちらが環境にいい？

環境に配慮しているとされる行為も、さまざまな要因が絡み合っているため、いろいろな立場から異なる意見があります。たとえば、エコバッグについても、レジ袋を使用しないことでごみを減らし、レジ袋の原料を節約するという意見がある一方、エコバッグを生産、輸送、販売するほうがレジ袋よりエネルギーを使う、ゴミ袋として使われていたレジ袋に代えて結局ほかの袋がゴミ袋として使用されてしまうのでよくないなどの主張があります。割り箸の使用についても、以前からいろいろな議論が交わされています。

すべての事柄において自分の目で事実を確かめることは難しいですが、単に流行だからではなく、自分なりの見識を持って環境活動を行うことが大切です。



割り箸に賛成？反対？

割り箸賛成！

- 飲食店で箸を洗って繰り返し使わないので衛生的。
- 国産の割り箸の多くは丸太から柱や板をとった残りの端材を使って作られたもので、ほかに利用価値のない、捨ててしまうような端材を使うことは立派な資源の有効利用。
- 国産の割り箸の多くは間伐材を利用しているので、国産の割り箸を使うことは国内の森林整備に役立つ。

割り箸反対！

- 「使い捨て」はよくない。
- 日本には割り箸用の木材を供給できるだけの大量の木材の蓄積があるが、輸送コストや労働コストが高いため、国産の割り箸は割高で、日本で消費される割り箸の90%以上が外国産である。これは、東アジア、東南アジアの森林伐採につながる。

リサイクル 別のものに生まれ変わる

家庭や企業から出る廃棄物を目的に合わせ分別して収集し、原料などに再生し利用することです。1980年代までは家庭から出るごみは可燃ごみ、不燃ごみに分けて廃棄されていましたが、1990年代に入ると、容器包装リサイクル法など資源の有効利用を促進する法律が定められ、分別収集が進むようになりました。具体的な分別の方法は自治体によって異なりますが、多いところでは20-30種類にも分別するところもありますが、一般的には、ビン、缶、ペットボトル、容器包装プラスチック、食品トレイ、牛乳パック、電池、電球、古紙・新聞紙などが主な分別となっています。牛乳パックから作られたトイレトーパーペーパー、ペットボトルから作られた合成繊維、再生紙を使った書籍などは、リサイクルされた原料から作られた製品の一例です。

また、近年では企業による大規模なリサイクルの仕組みづくりの試みも行われています。1998年には特定家庭用機器再商品化法（通称家電リサイクル法）が制定され、エアコン、テレビ、冷蔵庫、洗濯機については販売店や自治体が回収し、再生工場でのリサイクルされることになりました。



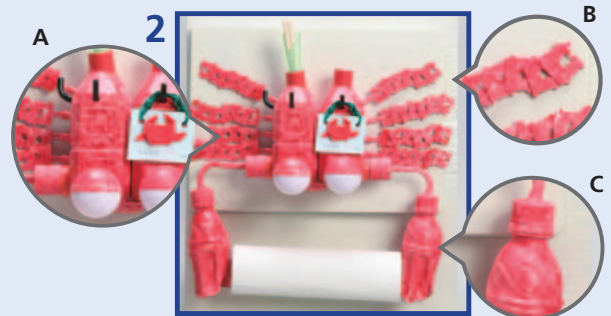
アルミ缶、スチール缶、ペットボトル、瓶などリサイクルできるものは、分別・収集される。

何で作ったかわかるかな？



「きれいなエリマキトカゲ」

©大橋弘明(名古屋市立藤が丘小学校4年) / (財)ちゅうでん教育振興財団



「ぼくのじまんのべんりだガニ」

©石黒広大(恵那市立上矢作小学校3年) / (財)ちゅうでん教育振興財団

これらは小学生を対象にしたリサイクル工作コンクール(ちゅうでん教育振興財団主催)の入賞作品(1は2008年度、2は2005年度)。

答えは次ページ

リユース もう1度使おう

従来、日本では個人レベルでは「もったいない」ということばとともに一度使ったものを再使用する文化がありました。子どもの洋服を「お下がり」として兄弟や知人がまた着る、紙袋や包装紙を捨てずにとっておき、また使うなどです。商業レベルでも、衣類や家具などを扱うリサイクルショップが各地にあるほか、古本などは大きな市場を形成しています。繰り返し利用できる瓶（リターナブル瓶）も、回収、再利用されています。経済的、物質的に豊かになるにしたいが、再使用せず捨ててしまうことも多くなっていましたが、3Rの定着とともに以前行われていたリユースが見直されています。



中古品店（通称リサイクルショップ）。家電製品から家具などいろいろなものが売られている。

前ページの正解

1-A うちわの骨
1-B ペットボトルのキャップ
1-C 歯ブラシ
(その他の材料)ダンボール、新聞紙、卵の殻

2-A ガチャポンのケース
2-B パンの袋を止めるクリップ
2-C ペットボトル



© TJF

もったいない

「もったいない」という日本語は、一説によれば仏教に由来することばで、本来、物の本来あるべき姿がなくなるのを惜しみ、嘆く気持ちを表しているとされています。現在では一般的に、物の価値を十分に生かしておらず、無駄にしてしまうのが惜しいという意味で用います。

2004年、環境分野で初のノーベル平和賞を受賞したケニア人女性、ワンガリ・マータイさんが翌年来日したときに出会ったことばが「もったいない」でした。「もったいない」は3Rを一言で表せるだけでなく、自然や物に対する思いやり、感謝、敬意 (respect) が込められていることに感銘を受けたマータイさんは、ニューヨークの国連本部で開かれた国連婦人地位向上委員会でも「世界的もったいないキャンペーンを展開し、資源を効率よく利用しよう」と訴え、世界規模での MOTTAINAI

キャンペーンが始まりました。

日本では朝日新聞社が MOTTAINAI キャンペーン事務局を発足、多くの企業や団体の協力によって、いろいろな方面でキャンペーンを展開しています。

MOTTAINAI ウェブサイト：<http://mottainai.info/>

『もったいないばあさん』

2004年、講談社から出版された絵本『もったいないばあさん』は、もったいないことをしていると、もったいないばあさんが「もったいなーい」とやってきて、捨てようとしていたものを使っていろいろなことをしてくれるお話です。現在、新聞、雑誌などで連載中です。2008年からは地球上で起きている問題とそれに巻き込まれる世界の子どもの現状を伝える「もったいないばあさんのワールドレポート展」が全国を巡回展示されています。



©Shinju Mariko, 2004, published by Kodansha



じゃーじゃー おみずの だっしっぱなし
もったいなーいと いって くるよ

© Shinju Mariko, 2004, published by Kodansha

もったいないばあさんウェブサイト：
<http://www.mottainai.com/>

受け継がれるエコの知恵

地元の食べ物を食べる、食べ物を残さない、ごみを出さない、自家用車ではなく公共交通機関を使う。これらはすべて環境に配慮した行動といえるものですが、数十年前の日本では自然に見られた生活でした。昔に戻りまったく同じ生活をすることはできませんが、当時の知恵に学び、取り入れられるところは取り入れようとする動きが見られます。

大江戸打ち水大作戦

打ち水とは、特に夏、道や庭に水をまき、涼しくすることです。なぜ打ち水で涼しくなるかというと、気化熱によって地面の熱を大気中に逃がすためです。ある研究機関によれば、都内で散水可能とみなされるエリアに1平米につき1リットルずつ水がまかれたら気温は2度下がると試算しています。また、水がまかれることで涼しく感じるという心理的な効果もあります。

昨今、都会では冷房を多く使うためにヒートアイランド現象（都市部の気温がその周囲の地域に比べて異常なほど高くなる現象）が起きています。そして冷房のための電力消費が



銀座で大江戸打ち水大作戦に参加する人びと

©打ち水大作戦本部

増加し、そのために電力不足が深刻化しています。そこで、2003年夏、NPOが「大江戸打ち水大作戦」をウェブサイトを中心に草の根の呼びかけを始めました。昔ながらの知恵、打ち水を大規模に行うことで、都市の気温を下げようという試みです。

テレビやラジオが取り上げたこともあり、2003年8月25日正午に行われた最初のいっせい打ち水には、多くの人びとが参加しました。夕方のテレビの天気予報で、キャスターがアメダスの映像を見ながら「打ち水によって東京の気温上昇は1度抑えられたのではないか」というほどの話題となりました。その後、毎年このプロジェクトは続けられており、2008年の参加者数は、7百万人以上と推定されています。

なお、このプロジェクトでは、節水のため、水道水は使わず、風呂の残り湯や雨水を使って打ち水をすることが大原則になっています。

風呂の残り湯

日本の多くの家庭では、毎日湯船にお湯をためて入浴します。その量は約200リットル。多くの家庭で風呂の残り湯を洗濯や掃除、植栽の水やりなどに利用してきました。残り湯を洗濯機で再利用するためのポンプつきホースなども販売されています。



お風呂の残り湯をポンプで洗濯機にくみ上げる。

©TJF

大学生の環境活動の活性化をめざして

啓太……大学4年生★、東京在住、2008 エココンの大学生代表

飛翔……大学2年生★、埼玉在住、2009 エココンの大学生代表

今号は、全国大学生環境活動コンテストを支える大学生スタッフに話を聞きました。



啓太

飛翔

★学年は取材当時(2009年2月)のもの。

コラム：全国大学生環境活動コンテスト(通称、エココン)

環境活動を行っている大学生の団体を対象に、環境に関するさまざまな分野の社会人・学生らによる公開選考を通じ、学生の環境活動を多面的に評価、表彰するコンテスト。2003年から毎年行われている。全国で環境活動を行っている団体がノウハウを共有し、学びあうこと、そして大学生の環境活動を活性化させることをコンテストの大きな目的としている。CSR(Corporate social responsibility)の一環として東京電力が共催している。参加者は発表者を含めて2日間でのべ約1,000人を超える。環境分野で活躍する社会人を中心に構成される実行委員会のもと、事務局スタッフが実際に企画・運営を行う。事務局は通年で活動する20~30人の学生と、社会人何名かで構成されている。

Q: 2008年12月に6回目のエココンが2日間にわたって開催されました。このエココンには何団体が参加しましたか。また、選考の過程を教えてください。

啓太: 58団体が参加しました。1日目は58団体を8グループに分け、グループ内で発表を行い、各グループで1団体を選びました。そして、選出された8団体で2日目に最終選考を行いました。各団体は5分間という短い時間のなかで自分たちの活動内容を発表しました。また、エココンではコンテスト以外にも、テーマごとに討論を行ったり、環境問題の専門家の話を聞いたりする分科会や展示コーナーなども設けています。



演劇仕立てにしたり、踊ったりと、団体ごとに工夫をこらした発表を行う。

Q: どういった活動に対する評価が高いですか。

飛翔: 今年は、八つの大学の学生が集まって活動している名古屋の団体が最優秀賞を受賞しました。この団体は、地域の映画館と連携して再利用できるコップを導入した

り、レストランからもらった廃食油や竹の間伐材を使ってキャンドル(ろうそく)を作ってキャンドルナイト(時間を決めて電灯を消し、ろうそくの明かりだけで過ごすという活動)を行ったりしています。

啓太: 前回のコンテストでは、携帯電話から見ることができるホームページに環境クイズを作成している団体が最優秀賞を受賞しました。前々回は地球にも人にも優しく、気軽に取り組める行動を、おしゃれに楽しくわかりやすく提案する無料情報誌を発行している団体が最優秀賞を受賞しました。また、地域の活性化や教育などの分野に環境活動を広げている団体や、活動の成果がすぐには見えなかったり、数値では測りにくかったりする団体の活動も評価されていると思います。

飛翔: 参加している団体の活動内容は、実にさまざまです。ごみ問題に取り組むところもあれば、環境教育など啓発に力を入れるところもあるし、海外で環境調査をしている団体もあります。

Q: なぜエココンに関わるようになりましたか。

啓太: 大学の外で、社会に目を向けた活動をしたと思っていました。わたしは環境活動に直接関わってはいませんが、大学生を対象とするコンテストを大学生が企画し運営していることと、環境問題をコンテストの素材として使っているというのがおもしろいと思いました。

飛翔: 環境問題は毎日のようにメディア(新聞やテレビ)で取り上げられていますが、自分には何ができるんだろうと考えました。そこで、「身近なところから変える」ことを目標にしている大学内の環境活動サークルに入って活動することにしました。大学生生活協同組合と協力してレジ袋を削減したり、大学と協力して学園祭で使う使い捨て容器をリサイクルしやすい容器にしたりしています。でも、大学内だけでなく、他大学の学生や社会人もいっしょに何かをやりたいと思いました。

Q: なぜコンテストの形式をとっているのでしょうか。

啓太: スタッフになった当初は、なぜコンテスト形式でやるのかと悩むこともありました。でも、ただ並べて見せるだけの品評会ではなく、コンテストの形式をとるからこそ、それぞれの団体が自分たちの強みをより明確に打ち出すし、他団体はそういった発表を見て学ぶことも多いのです。

飛翔: 参加する団体は、エココンで自分たちの活動をアピールするために、これまでの活動を冷静に振り返り、今後の活動をみんなで話し合います。エココンに参加した多くの団体から、今後の課題だけでなく、自分たちの活動のいいところを再発見でき、次に進む道筋が見えた、といった感想が寄せられます。わたしも悩んだことがありましたが、そういった感想を聞いて、コンテストの形式でいいのだと思うようになりました。

啓太: ただ、活動を点数化して単に優劣を競うのではなく、参加する団体の活動が次の年に、より活性化するようなコンテストにしたいと思っています。そのために、エココンでは、選考以外の場も大事にしています。例えば、2008年のエココンでは、選考のあとでグループごとに、今後の活動に生かせるものは何かについて意見交換をしました。また、グループ討論や交流会を積極的に設けています。

Q: 今後エココンがどのようになっていけばいいと思いますか。

飛翔: 今、ちょっとした環境ブームで、大学でも環境活動をするサークルが多く生まれています。でも、一方で、環境サークルに入っている人は、周りの友達から、「すごいね」という感じで見られたりします。「すごいね」じゃなくて、「ああ、そうなんだ」というように普通に見られるような状況になればいいなと思います。そして、普段、環境活動をしていない人でも気軽に来て、楽しめるようなエココンにしたいと思っています。

Q: エココンに関わって、どんなことを学びましたか。

啓太: 割り箸をやめるためにマイ箸を持ち歩いたり、レジ袋を削減するためにマイバッグを持ち歩いたりする取り組みを見て、そういった取り組みがすぐに温暖化を止められるわけじゃないし、マイ箸やマイバッグが本当に環境にいいかどうかはわからないじゃないか、と思っていました。でも、そういった活動はそこで終わるのではなく、多くの人を巻き込んだり、地域を活性化したりしながら、広がっていくことがわかりました。だから、環境問題をただそれだけで考えるのではなく、社会のいろいろな

ものとのつながりのなかで考えながら、環境問題に関わっていきたいと思うようになりました。

飛翔: エココンに参加した団体や選考委員から、「学生の熱い気持ちに動かされた」「わたしたちの思いがわかってもらえてうれしい」といった声をよく聞きます。人は、最終的には、頭よりも心で動くものだと思うので、自分の思いをほかの人にちゃんと伝えるように心がけるようになりました。そして、自分の小さな力が社会にいい影響を与えられるようなところで働きたいと思います。



学生スタッフ。

わたしの好きなもの

好きな言葉

啓太: 全力疾走

飛翔: 志高頭低



趣味

啓太: スポーツ。スポーツをすることもみることも好きです。

飛翔: ミュージカル鑑賞です。(特に「レ・ミゼラブル」が好きです。20回以上みました♪)

好きな色

啓太: いろいろな色。その時の気持ちを表す色が好きです。

飛翔: 赤です。人を元気にしてくれるから。



好きな場所

啓太: たくさんありますが、旅行で行った京都は気持ちが落ち着いて大好きになりました。

飛翔: 家です。家族の温かさ、ありがたさを感じることが出来るから。